

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

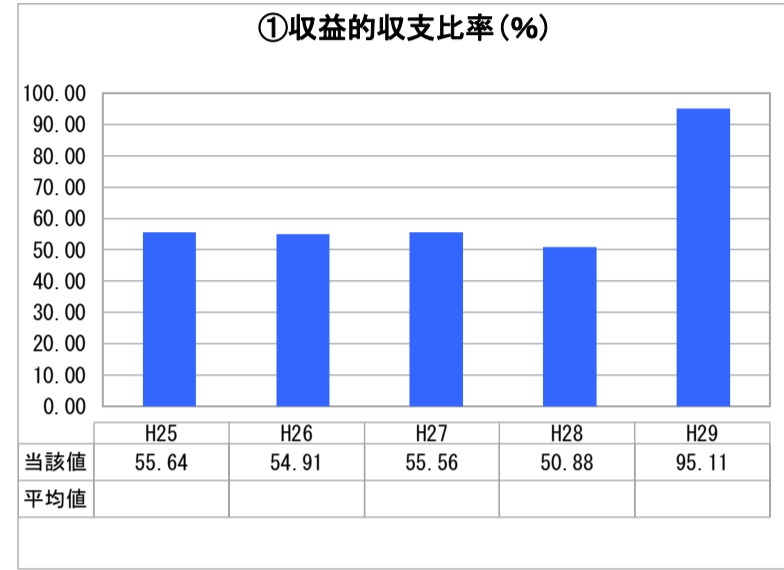
福井県 永平寺町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	20.18	98.05	2,484

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
18,779	94.43	198.87
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
3,765	2.49	1,512.05

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成29年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



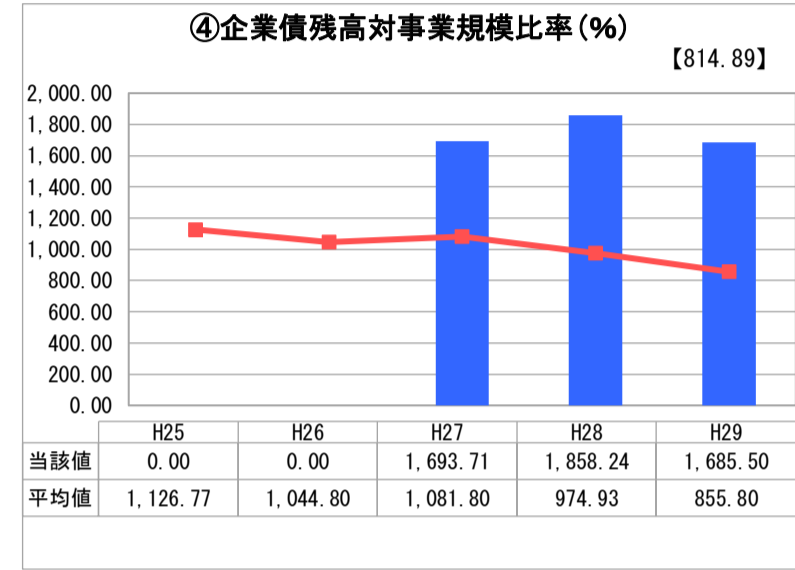
「単年度の収支」



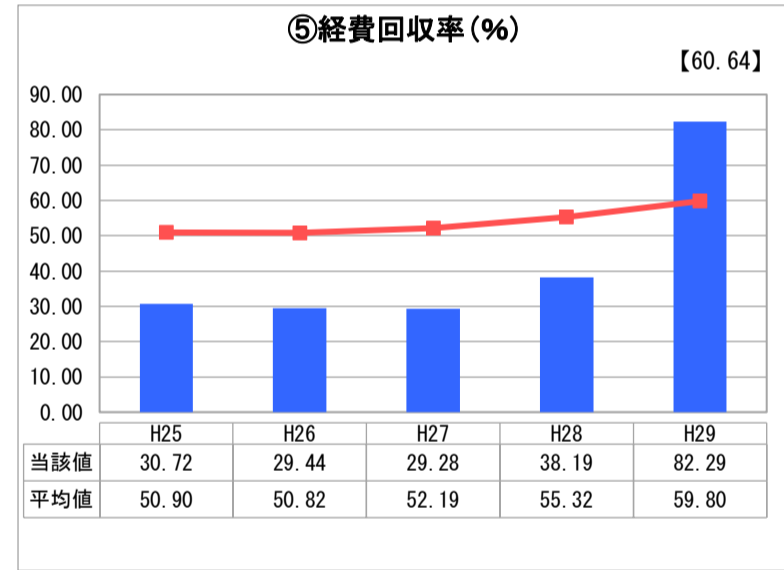
「累積欠損」



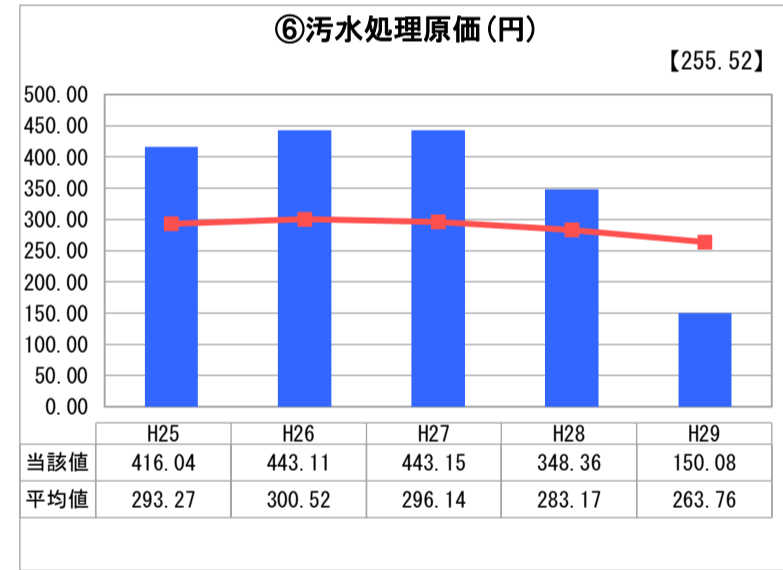
「支払能力」



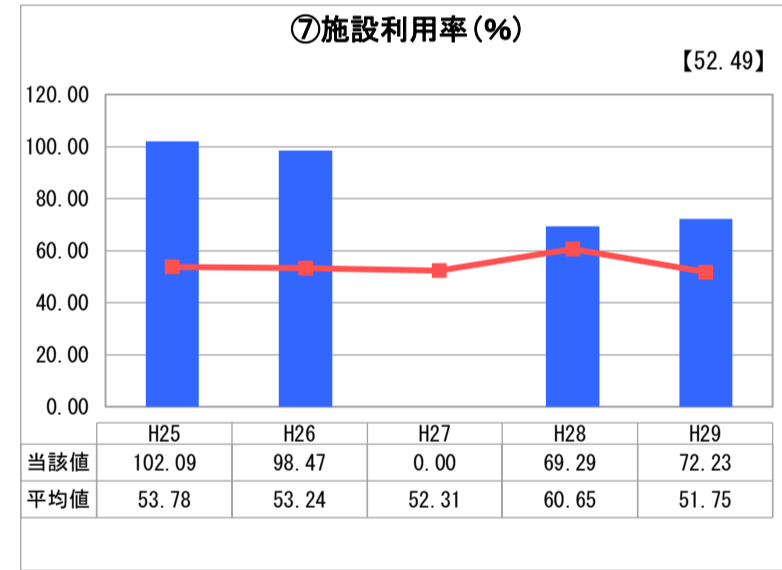
「債務残高」



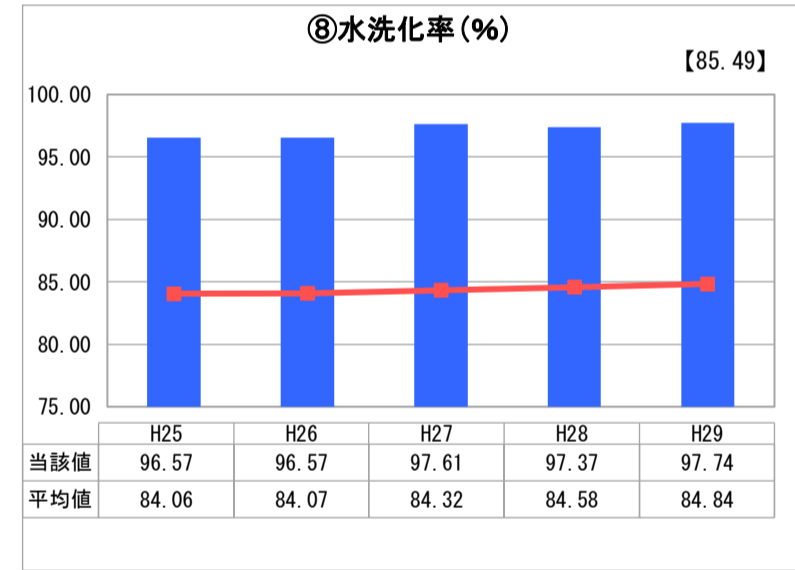
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

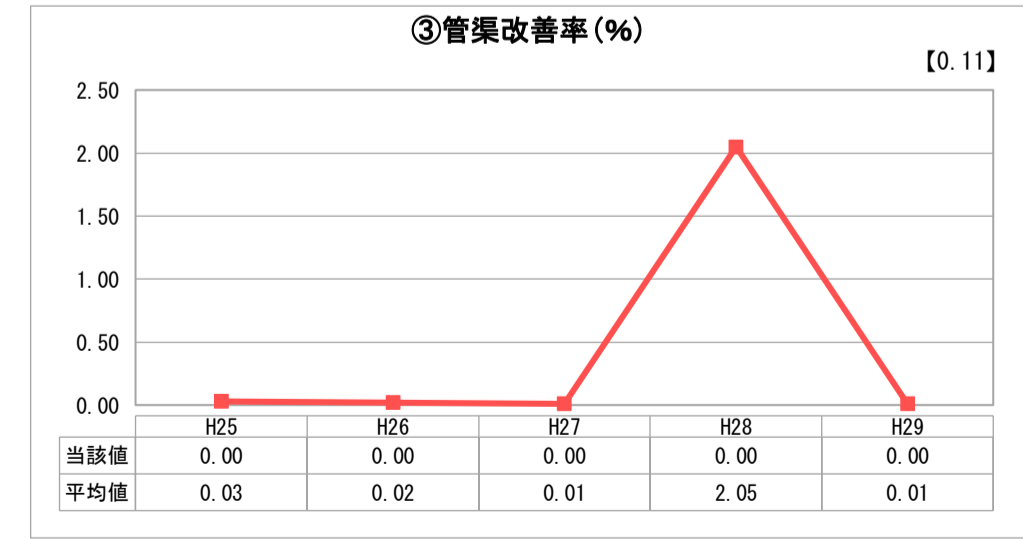
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率は、100%未満であり、資本費のほぼ全てを一般会計繰入金に依存している状況であるため、使用料収入による財源確保等の経営改善に向けた取組が必要である。

④企業債残高対事業規模比率は、昨年に比べ地方債残高は減少しているものの、依然として高い水準にあり、類似団体平均を上回っている。これは、複数の処理区設定により建設投資額が膨らんだことによるものである。

⑤経費回収率は、依然、100%を下回る状況であり、料金改定や汚水処理費の抑制が必要である。

⑥汚水処理原価は、類似団体平均を下回っているが、引き続き効率化による維持管理費の削減に努めていく。

⑦施設利用率は、類似団体平均よりも高く推移しているが、今後は人口減少による利用率低下も見込まれるため、処理区の統廃合について検討していく必要がある。

⑧水洗化率について、供用開始当時より地元が中心となって加入促進の取り組みを行ったことにより、高い値になっている。

### 2. 老朽化の状況について

当町の農業集落排水事業は、平成7年から順次、供用を開始しているものである。耐用年数の観点から考えても、半分以下の経年数となっていることから、現状としては管渠の更新・老朽化対策は実施していない。

長期的な考えとしては、管渠の更新は、耐用年数である50年を目処に実施することを考えているが、単に耐用年数通りに更新するのではなく、事前に点検を行い、その時の状況に即して更新を行っていく予定である。

## 全体総括

当町の農業集落排水事業は、松岡地区の吉野処理区、上志比地区の西部処理区、中央処理区、東部処理区の計4処理区で汚水を処理している。

経営的には、資本費のほぼ全額を一般会計からの繰入金に依存している状況が続いているところである。このため、料金体系の見直し、維持管理費の削減など経営健全化に努める必要がある。また、現在、吉野処理区の公共下水道事業への統合を進めているところであるが、上志比地区の施設の統廃合についても検討を行う必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。  
 ※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。